

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.5.3	ページ	p.53	行	28行目
事業名	航路維持事業		河川名	淀川			
府 県	大阪府	市町村	大阪市～枚方市		地先	-	

現状の課題
 近年市民の河川に対する関心の増大、沿川自治体における川に向けたまちづくりや川と都市の連続性修復、水辺の賑わい創出等の観点から舟運復活を要望する声が増えており、また、平成7年1月の阪神・淡路大震災を踏まえ緊急時の物資輸送として舟運が見直され、広域的な利用が期待されている。

河川整備の方針
 阪神大震災時には一般道路が交通混乱し、水上輸送が見直された。そのようなことから、淀川周辺の大規模震災時における淀川を活用した水上緊急輸送を可能とする舟運活用のための整備を進めるとともに、沿川自治体や民間企業等の舟運復活に対する要望を踏まえて、航路確保や付属施設の整備等について検討する。

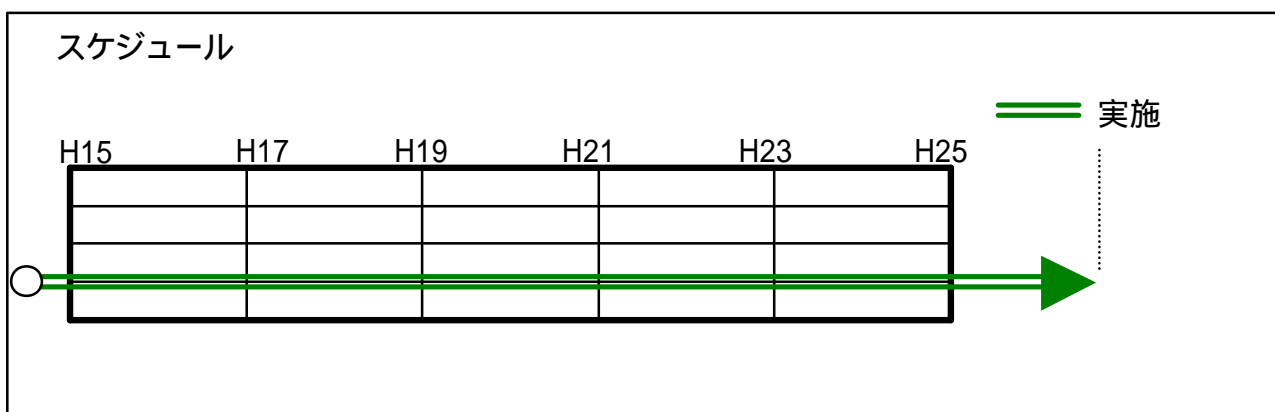
位置図

具体的な整備内容

- ・河口から枚方および大塚船着場までの安全な航路維持を実施する。

検討内容

- ・安全な河川利用のための航行を検討する。



写真

航行区域の設定 (案)

自然保全区域



水際の自然環境を保全するために水際から50mまで、船の航行を原則として禁止する区域

減速区域



取水口や係留されている船への影響を避けるため減速する区域

動力船通航禁止区域



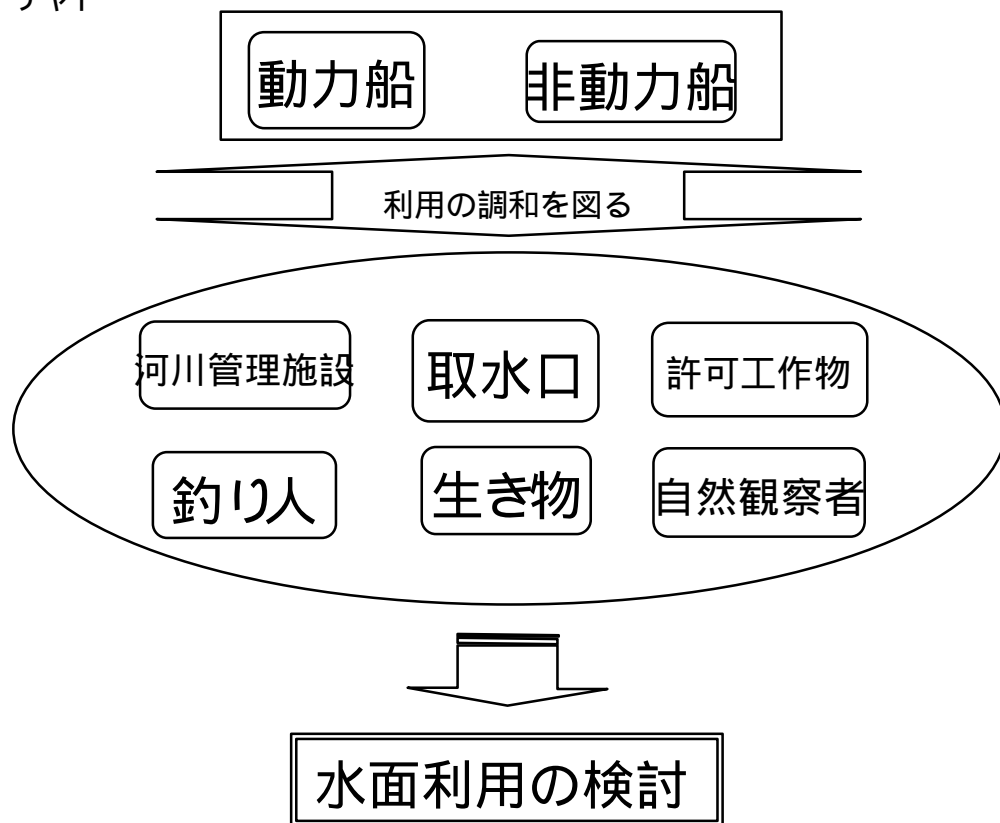
手漕ぎボートや水辺で遊ぶ人たちの安全を確保するため動力船の通航を禁止する区域

施設管理区域



河川管理施設の操作に支障が生じないように船の通航を制限する区域

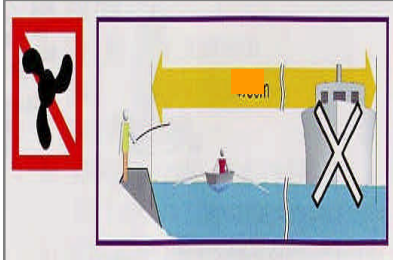
フローチャート



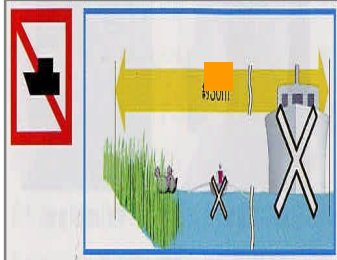
整備効果

水面利用ルール

動力船航行禁止区域



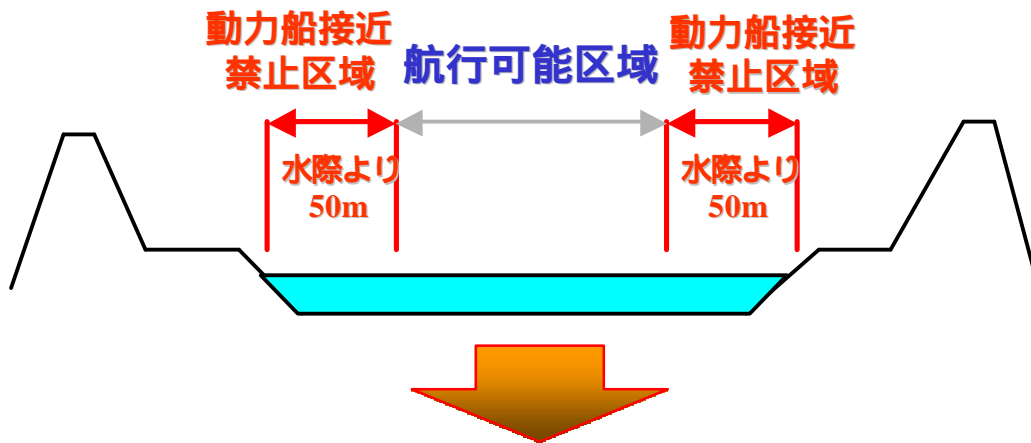
減速区域



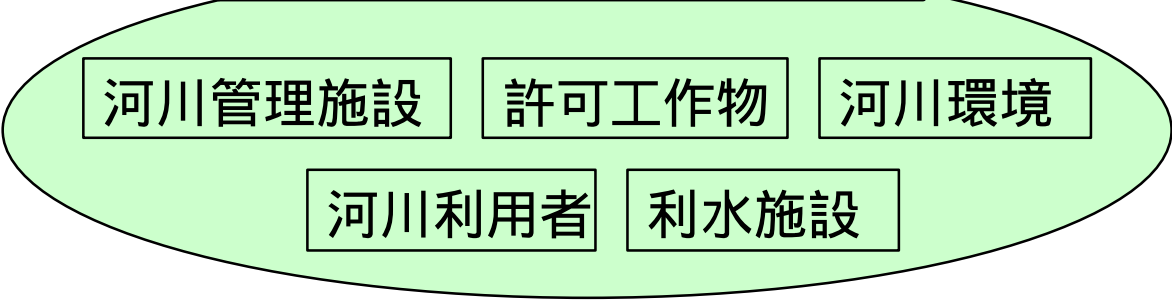
自然保全区域



- 環境面からの航行規制案 -



河川利用に配慮



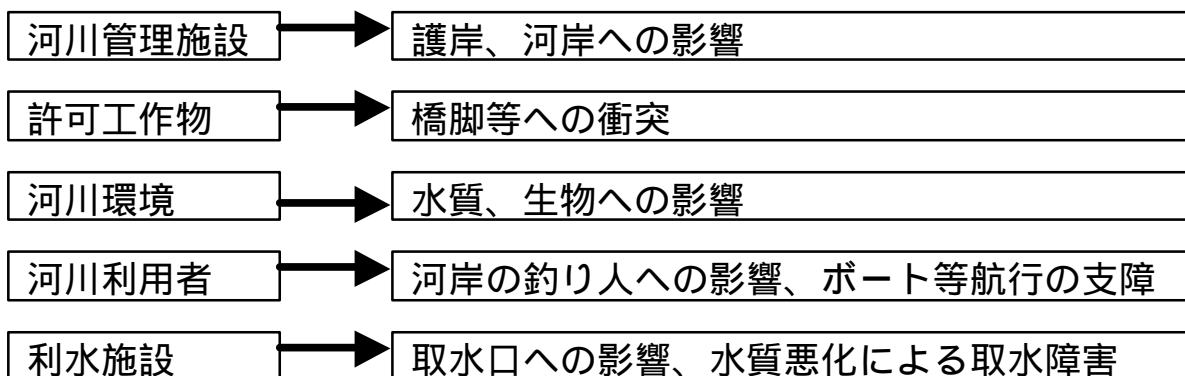
通行規則を策定して航路を確保する

提案理由

舟運が実施されると

- ・ 航走波による波立ち
- ・ 航行騒音
- ・ 泥の巻き上げ
- ・ 事故の発生
- ・ 衝突、転覆、沈没、破損等
- ・ その他水域環境への影響

舟運実施上の問題点・課題



安全な河川利用のための対策

- ・ 航行速度設定
- ・ 減速区域の指定
- ・ 航行制限区域の指定
- ・ 航行方法
- ・ 船舶形式の研究
- ・ 航行時期（洪水対応）
- ・ 事故対応
- ・ 法の適用性の研究

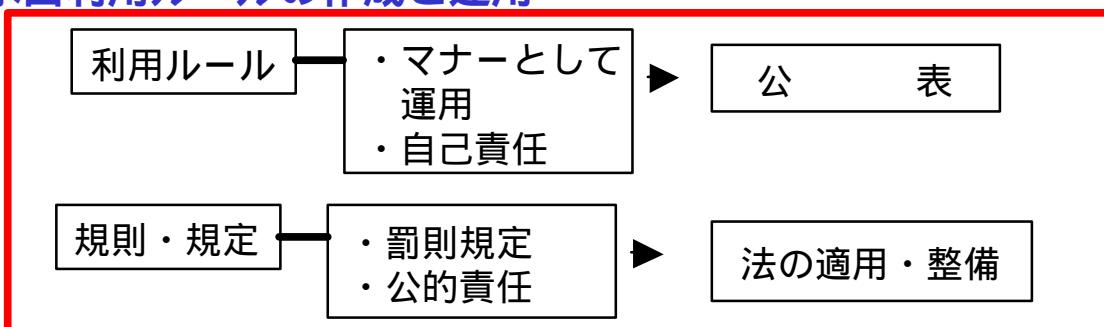
利用者間調整合意形成



水面利用協議会



水面利用ルールの作成と運用



説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.5.3	ページ	p.53	行	30行目
事業名	淀川舟運低水路整備事業		河川名	淀川			
府 県	大阪府	市町村	枚方市、高槻市、島本町		地先		

現状の課題
 近年市民の河川に対する関心の増大、沿川自治体における川に向けたまちづくりや川と都市の連続性修復、水辺の賑わい創出等の観点から舟運復活を要望する声が増えており、また、平成7年1月の阪神・淡路大震災を踏まえ緊急時の物資輸送として舟運が見直され、広域的な利用が期待されている。

河川整備の方針
 阪神大震災時には一般道路が交通混乱し、水上輸送が見直された。そのようなことから、淀川周辺の大規模震災時における淀川を活用した水上緊急輸送を可能とする舟運活用のための整備を進めるとともに、沿川自治体や民間企業等の舟運復活に対する要望を踏まえて、航路確保や付属施設の整備等について検討する。

位置図

具体的な検討内容
 ・枚方及び大塚船着場から三川合流点までの航路確保を検討する。検討に当たっては、河道内での航路の蛇行、ワンドの活用等、河川環境の修復を念頭に行う。

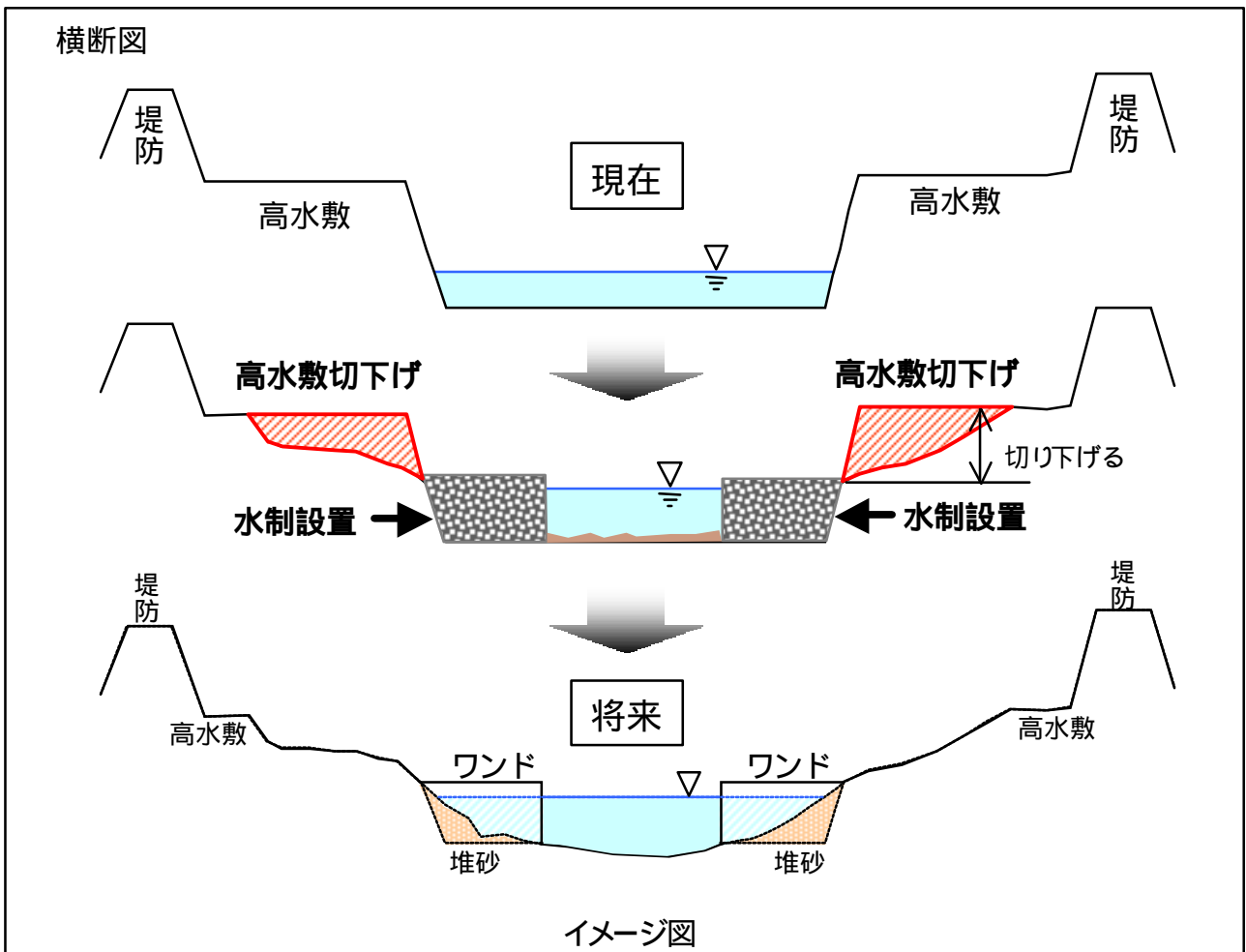
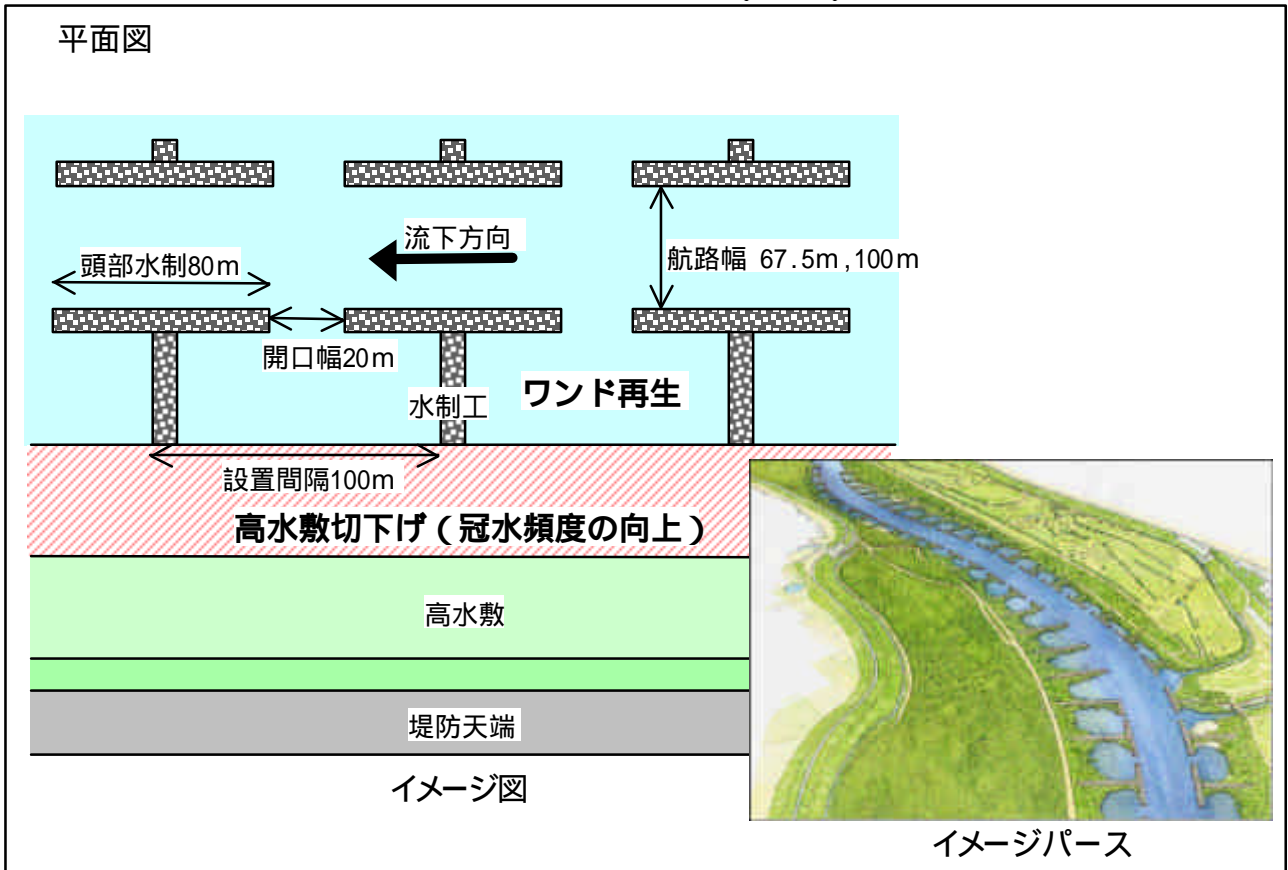
検討内容
 ・枚方及び大塚船着場から三川合流点までの航路確保を淀川舟運航路に関する研究会において検討する。

スケジュール

	H15	H17	H19	H21	H23	H25
○	[Red bar]					
○	[Blue bar]					

■ 検討
■ 委員会

淀川舟運航路に関する研究会



整備効果**水制工の設置**

水制工設置により 次の効果の検討。

- ・平常時の航路幅(川幅)が狭まることによる喫水の確保(水深増)
- ・水深増により掃流力が増し 航路内の堆砂が軽減(維持管理が容易)
- ・豊かな生物層を形成するワンドの再生

ただし、以下の課題がある。

- ・粗度が増すことによる流下能力の低下

提案理由 (代替案含む)

淀川では、緊急時の物資輸送、歴史文化の継承、河川環境へのふれあい等を目的に舟運の復活が望まれている。舟運の成否は航路をいかに、安定させるかにかかっている。航路の計画にあたっては、水深と幅の確保、流下能力の確保、侵食・洗掘に対する河川管理施設の安全性の確保、コストの最小化(イニシャルコスト+ランニングコストの最小化)、河川環境の保全(自然環境や景観の保全と創造、河川利用との調和)という視点から、淀川の水理的特性を踏まえ、計画の妥当性を検証していく必要がある。以下に舟運航路確保手法を提案する。

1.水制工による航路の確保

過去の淀川にあった水制工を設置することにより、豊かな生物層をはぐくむワンドを再生し、航路を確保する。また、水制工設置による流下能力の低下を軽減する為に高水敷を切下げ、エコトンの形成、冠水頻度の上昇等、良好な生物環境の形成もねらう。

2.対象船舶の能力向上による舟運 (代替案)

技術革新により喫水1m以下の船舶(対象船舶である貨物船)を開発し、大規模な航路確保工事を行わずに舟運を行う。

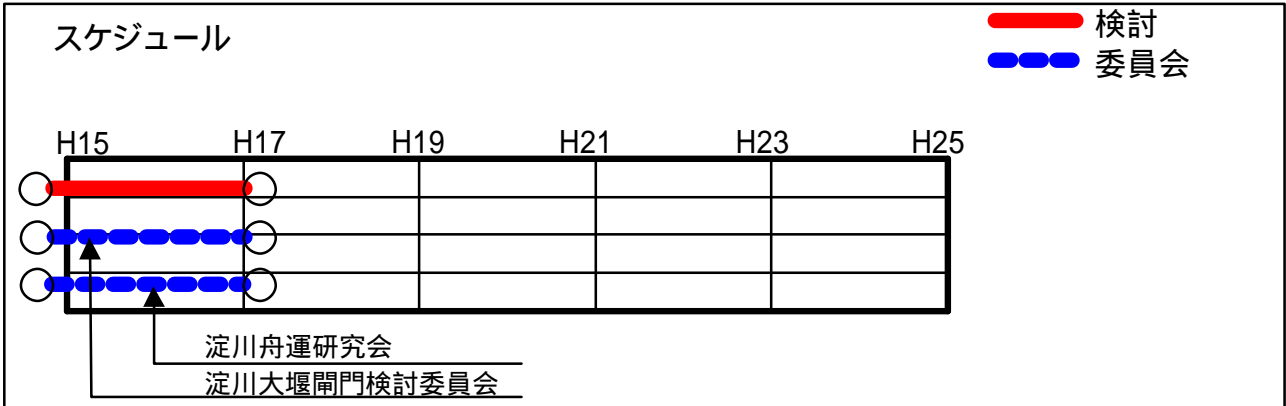
説明資料 (第2稿)での記載箇所	章項目	5.5.3	ページ	p.54	行	1行目
事業名	淀川大堰閘門設置検討事業		河川名	淀川		
府 県	大阪府	市町村	大阪市		地先	北区、東淀川区 (再掲)

現状の課題
 近年市民の河川に対する関心の増大、沿川自治体における川に向けたまちづくりや川と都市の連続性修復、水辺の賑わい創出等の観点から舟運復活を要望する声が増えており、また、平成7年1月の阪神・淡路大震災を踏まえ緊急時の物資輸送として舟運が見直され、広域的な利用が期待されている。

河川整備の方針
 阪神大震災時には一般道路が交通混乱し、水上輸送が見直された。そのようなことから、淀川周辺の大規模震災時における淀川を活用した水上緊急輸送を可能とする舟運活用のための整備を進めるとともに、沿川自治体や民間企業等の舟運復活に対する要望を踏まえて、航路確保や付属施設の整備等について検討する。

位置図

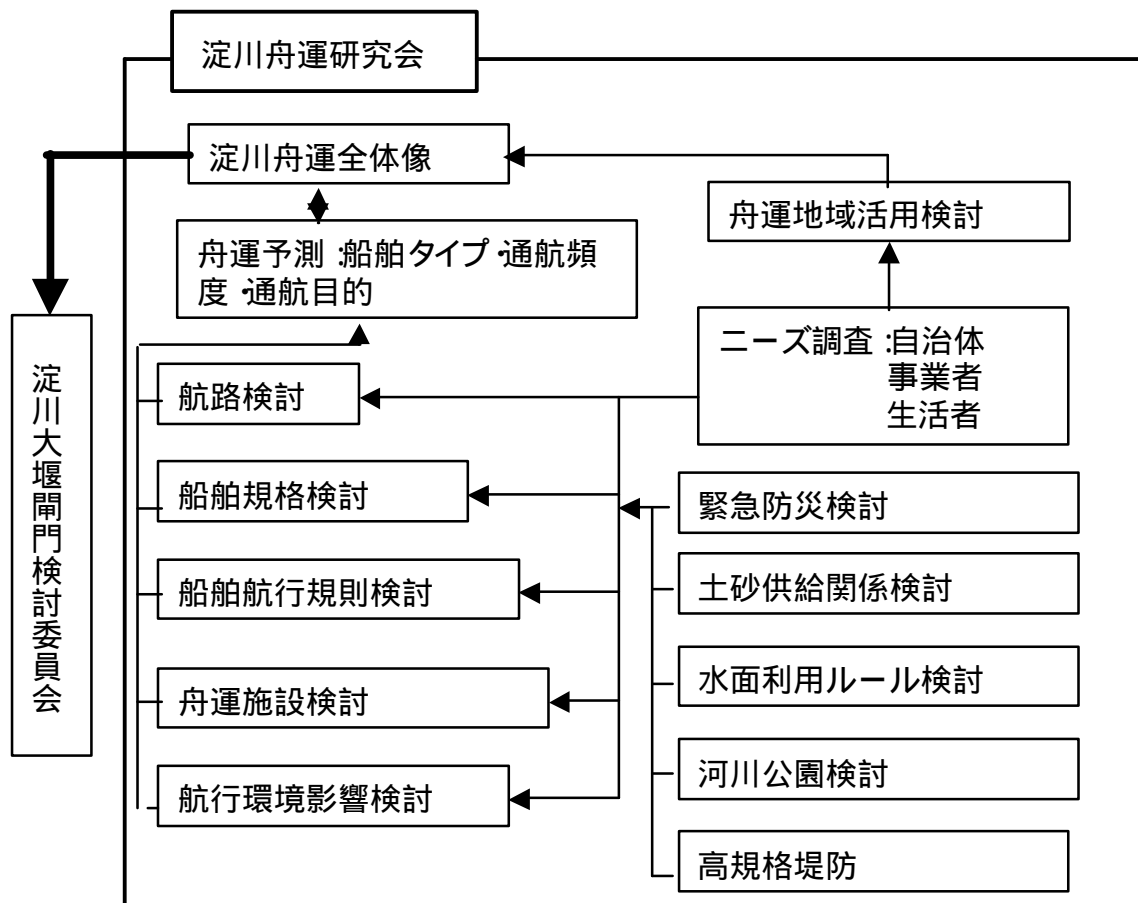
具体的な検討内容
 ・淀川本川から直接海への通船が出来ないため、淀川大堰の閘門設置を検討する。



写真



フローチャート



整備効果

淀川大堰閘門設置の検討

1.緊急時対応

現在は、大川から毛馬閘門への航行しかできないが、災害時に、水上からの緊急時輸送の航路を確保するためには、大阪湾から直接、中流部や上流部まで行き来できるように閘門施設の設置の検討を行う。

輸送手段	災害時輸送性
陸	1.震災時には道路が寸断される 2.道路啓開に日数を要する
空	1.負傷者の搬送には適する 2.医療品等の軽量物の輸送には有効
川	1.船着場と河川敷道路を使用することで大量輸送が可能 2.橋梁が不通時でも対岸交通が確保される

淀川沿川都市に都市型大災害が発生すると、河川を使った水上輸送が有効

2.舟運復活の高まり

近年、市民の河川に対する関心の増大や、沿川自治体における川に向けた町づくりの視点を確保するために、舟運の復活の要望が上がってきた。これを踏まえて検討を行う。
沿川地域の活動状況

<p>淀川舟運整備推進協議会 (H12.11~)</p> <p>(枚方市、寝屋川市、大阪市、守口市、摂津市、高槻市、島本町、京都市、宇治市、八幡市 9市 1町で構成 * 参与 大阪府、京都府)</p>	<p>NPO団体の活動も 2003年 第3回世界水フォーラムを経て活発化 ・シンポジウム・淀川舟運体験 など</p> <p style="text-align: right;">淀川舟運復活への期待</p>
---	---

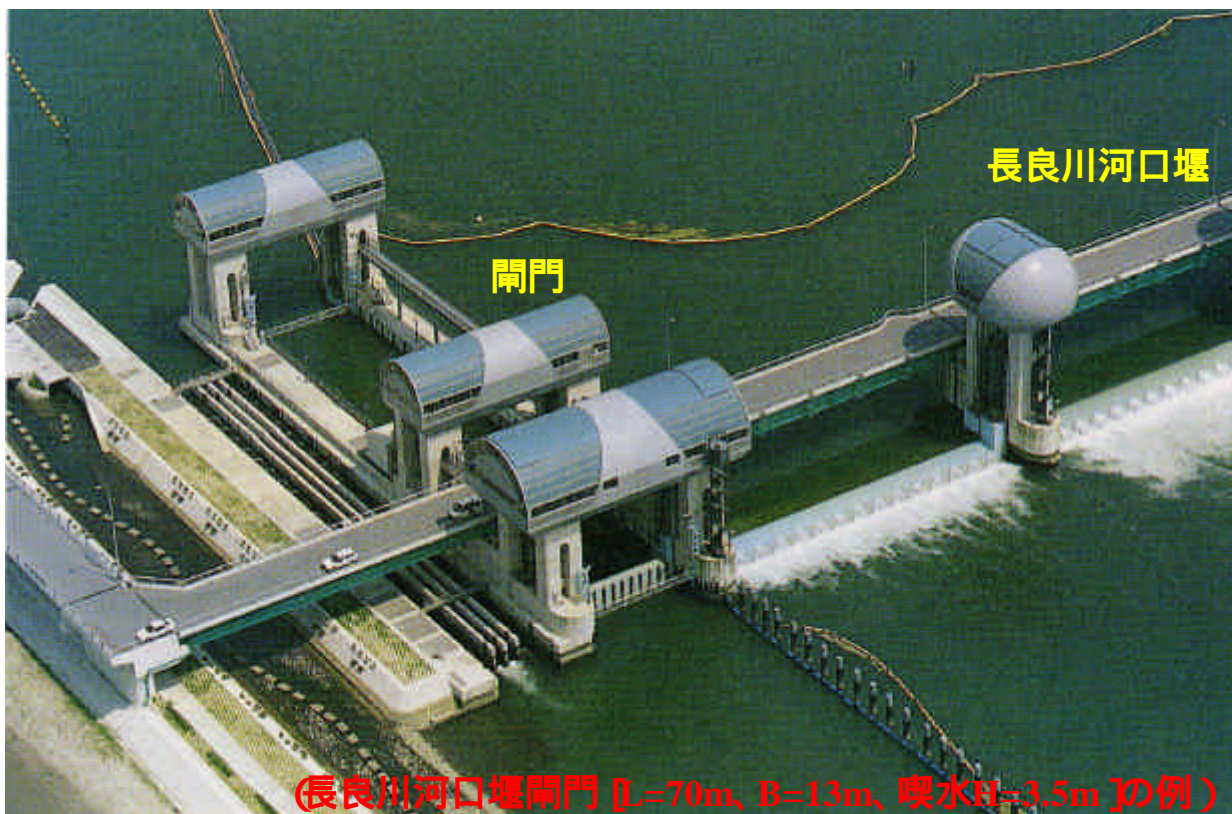
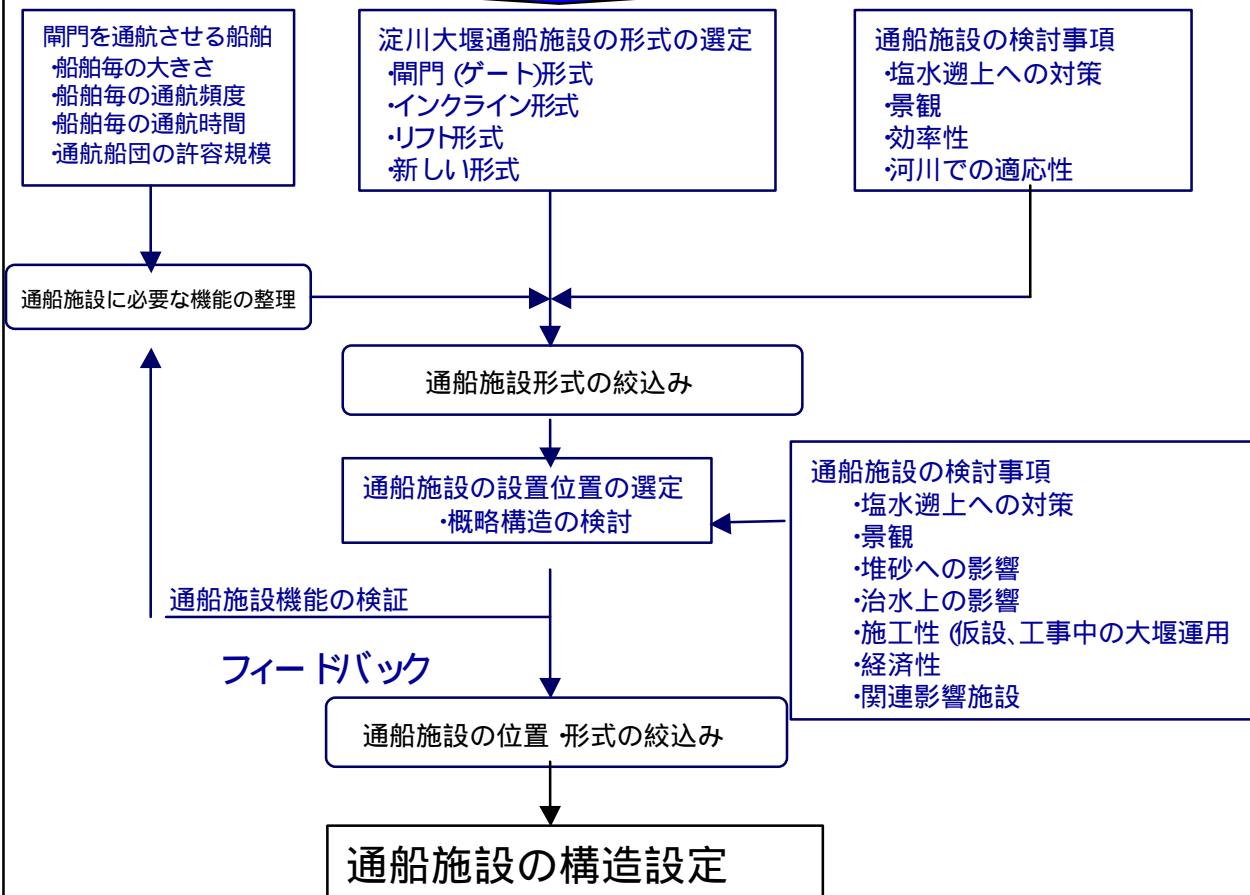
3.具体的整備手法

次の技術条件への対応を考慮して技術的検討を行う

地盤	現大堰の構造 (老朽化)
津波の遡上と影響予測	船舶の予期せぬ激突
耐震	閘門の通船システム

提案理由 (代替案含む)

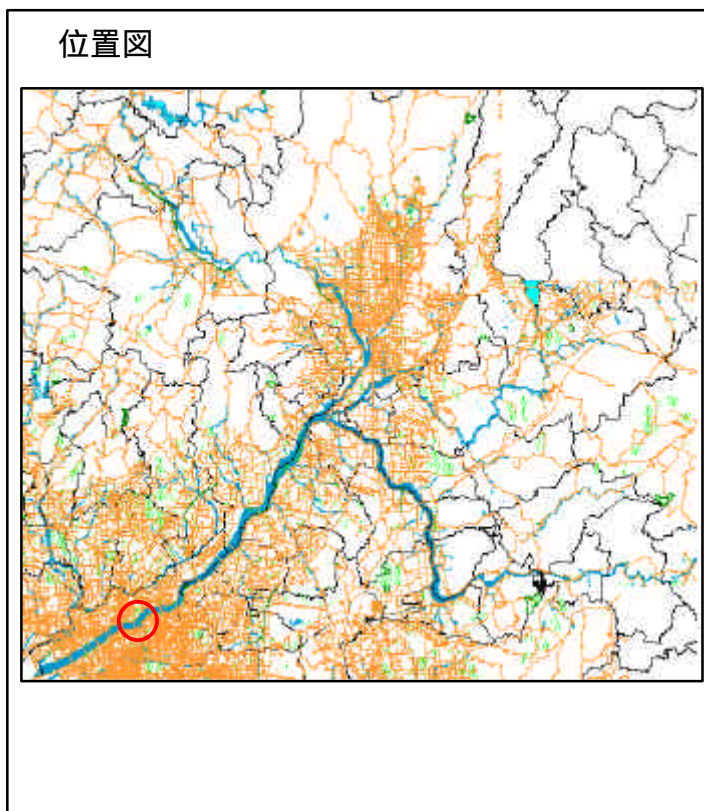
委員会と研究会において、淀川における舟運基本構想を明らかにする。



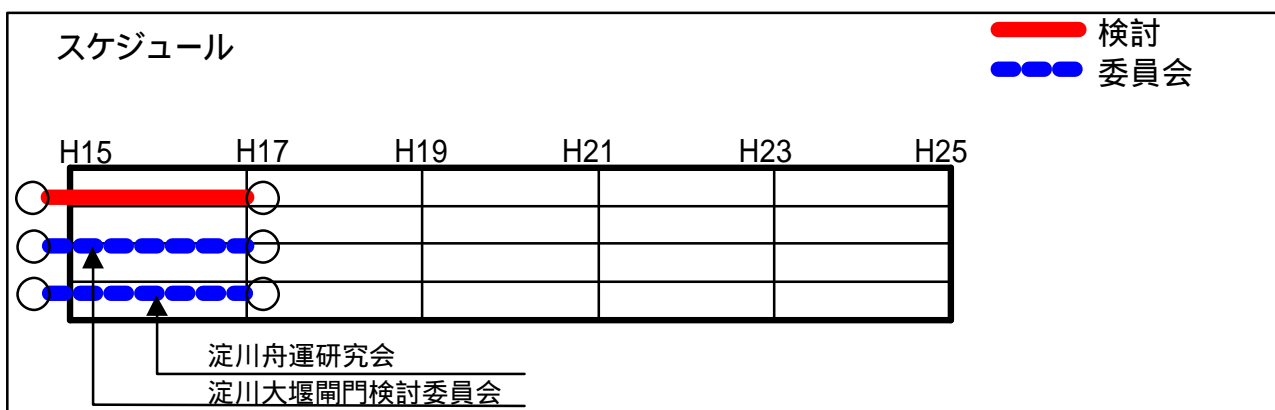
説明資料(第2稿)での記載箇所	章項目	5.5.3	ページ	p.54	行	3行目
事業名	毛馬閘門運用手法検討事業		河川名	淀川		
府県	大阪府	市町村	大阪市		地先	北区、東淀川区

現状の課題
 近年市民の河川に対する関心の増大、沿川自治体における川に向けたまちづくりや川と都市の連続性修復、水辺の賑わい創出等の観点から舟運復活を要望する声が増えており、また、平成7年1月の阪神・淡路大震災を踏まえ緊急時の物資輸送として舟運が見直され、広域的な利用が期待されている。

河川整備の方針
 阪神大震災時には一般道路が交通混乱し、水上輸送が見直された。そのようなことから、淀川周辺の大規模震災時における淀川を活用した水上緊急輸送を可能とする舟運活用のための整備を進めるとともに、沿川自治体や民間企業等の舟運復活に対する要望を踏まえて、航路確保や付属施設の整備等について検討する。



具体的な検討内容
 既設の毛馬閘門については、大阪市内河川とのアクセス性の向上のため、航行可能時間や運用手法を検討する。



写真



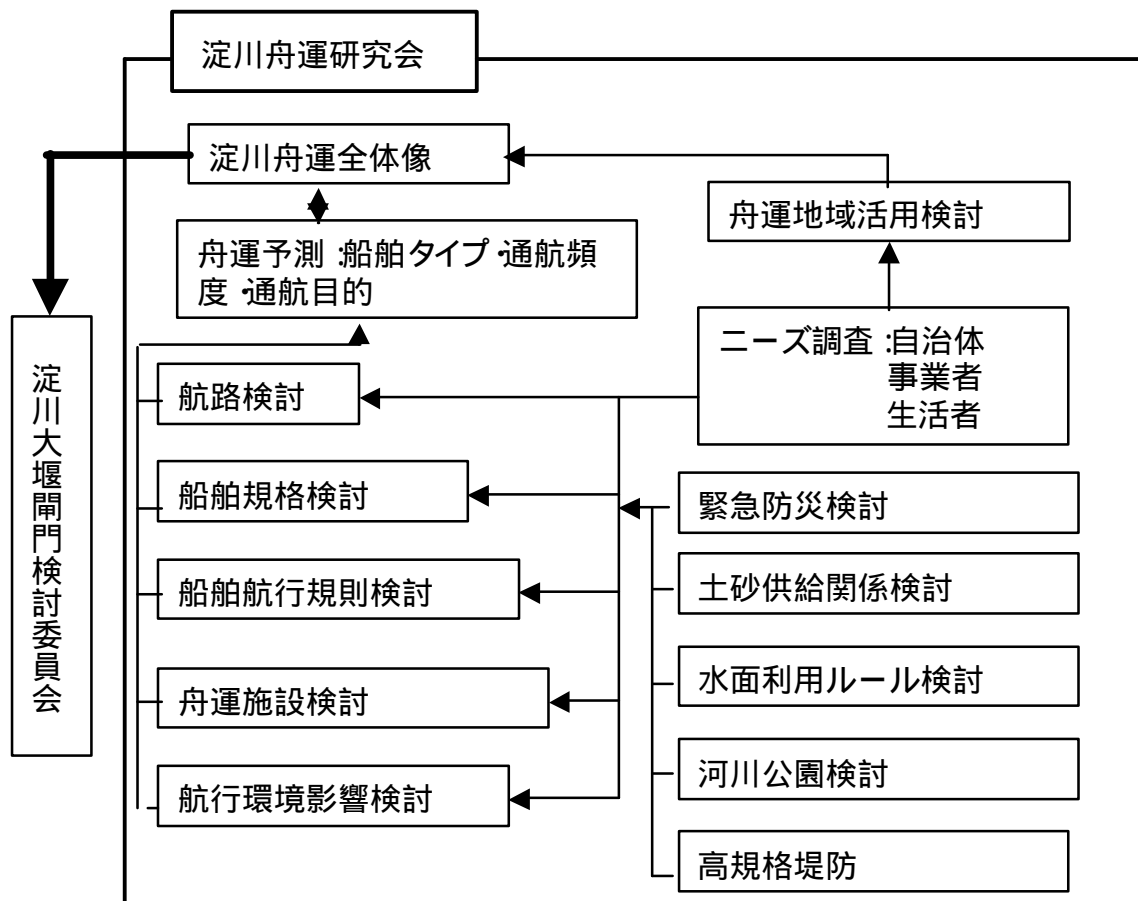
毛馬閘門



舟運イメージ



フローチャート

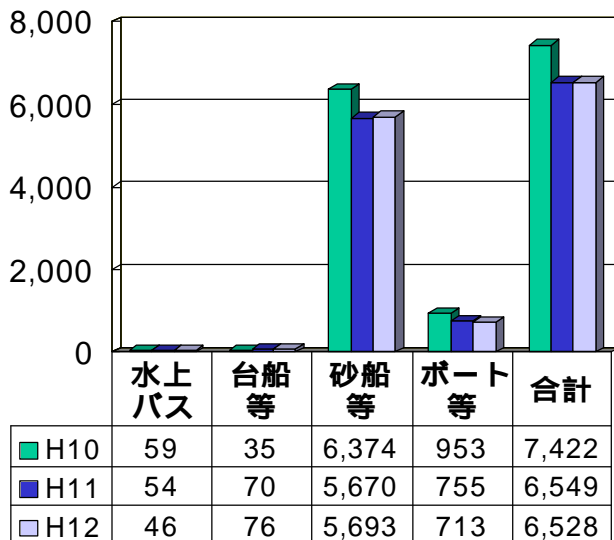


整備効果

閘門を日頃から利用しやすくし 緊急時に利用できる環境づくりをする。



現在の毛馬閘門の通船状況



**現在の毛馬閘門
の通船可能時間
8:30~ 17:00**

・自治体、民間の要望
観光協会 舟運会社 ;毛馬閘門の土日 祝日 夜間の通航

毛馬閘門の航行可能時間の検討

・土日、祝日操作体制の確保
夜間通航の対策
安全管理機器の整備
遮断機、航路標識灯 監視カメラ etc
通航手続きの簡素化



・大阪市内河川との舟運利用の活性化
・NPO等との連携を検討

提案理由 (代替案含む)

現在、淀川本川から大阪市内河川にでる航路は毛馬閘門を利用しているが、利用者からの改善要望に対して検討する。

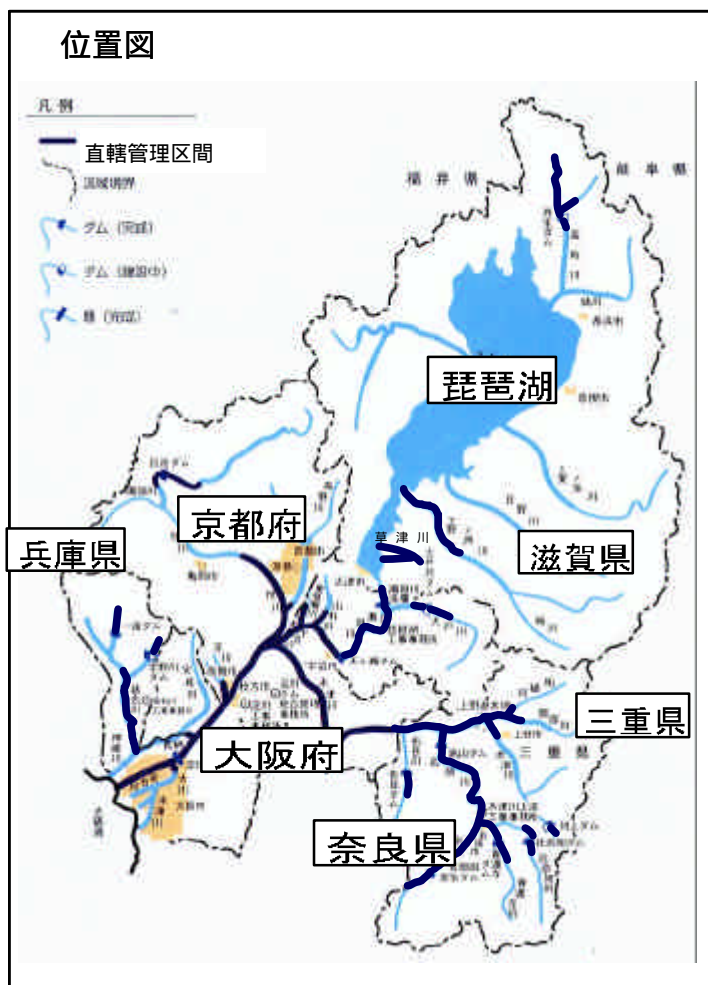
本川から大阪湾までの航路図



説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.5.4	ページ	p.54	行	5行目
事業名	漁業		河川名	淀川水系各河川			
府県	大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・三重県						

現状の課題
 瀬と淵、湿地帯、ワンドやたまりの減少、砂州における樹林の繁茂等により、生物の生息・生育環境が悪化している。

河川整備の方針
 淀川水系における生物の生息・生育環境の保全・再生を目標とする各施策を実施することにより、河川環境を保全・再生し、結果として水産資源の保護につなげる。



具体的な整備内容
 詳細は「5.2河川環境」に記載しているが、以下のような施策を実施することにより結果として、水産資源の保護につなげる。

- (1)横断方向及び縦断方向の連続性の修復
- (2)治水・利水への影響を考慮した上で、水位変動や攪乱の増大及び自然流況に近い流量が流れるように、淀川大堰や瀬田川洗堰等の運用を検討する。
- (3)河川の流入総負荷量管理や自治体、関係機関、住民とのデータの共有化及び水質事故対応等のため琵琶湖・淀川水質管理協議会(仮称)の設立を検討する。
- (4)土砂移動の連続性を確保するための方策を、山地流域から沿岸海域に至るまで総合的に検討する。

スケジュール

H15	H17	H19	H21	H23	H25

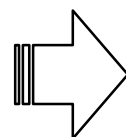
概要

生物の生息・生育環境の保全・再生を目標とする各施策を実施する

横断方向及び縦断方向の連続性の修復



魚道未設置
6号井堰(桂川)

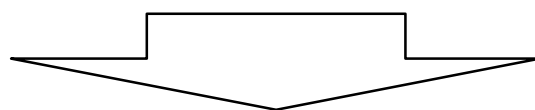
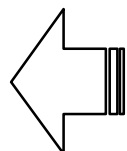


魚道設置



縦断的非連続
3号井堰(桂川)

連続性
の確保



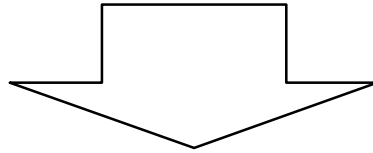
結果として水産資源の保護につながる

整備効果

淀川水系における生物の生息・生育環境の保全・再生を目標とする各施策を実施することにより、河川環境を保全・再生し、結果として水産資源の保護につなげる。

提案理由 (代替案含む)

瀬ど淵、湿地帯、ワンドやたまりの減少、砂州における樹林の繁茂等により、生物の生息・生育環境が悪化している。



水産資源の保護が求められている